琉球大学学術リポジトリ

琉球列島より採集された2種のイボショウジンガニ属 (甲殻亜門: 十脚目: 短尾下目: ショウジンガニ科)

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 琉球大学資料館 (風樹館)
	公開日: 2018-03-08
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 前之園, 唯史, Maenosono, Tadafumi
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/38689

Fauna Ryukyuana
ISSN 2187-6657
http://w3.u-ryukyu.ac.jp/naruse/lab/Fauna_Ryukyuana.html

琉球列島より採集された２種のイボショウジンガニ属 (甲殻亜門: 十脚目: 短尾下目: ショウジンガニ科)

前之園唯史
〒901-2111 沖縄県浦添市経塚1-4-5 102 株式会社かんきょう社 (maenosono@kankyo-sha.co.jp)

要旨. 沖縄諸島および石垣島より採集された標本に基づき，琉球列島未記録のツブイボショウジンガニ *Plagusia immaculata* Lamarck, 1818 とミゾイボショウジンガニ (改称) *P. speciosa* Dana, 1851 を報告する．このうちミゾイボショウジンガニ (改称) は日本初記録である．また，これらの２種にイボショウジンガニ *P. squamosa* (Herbst, 1790) とショウジンガニ *Guinusia dentipes* (De Haan, 1835) を加えた日本産ショウジンガニ科全種の検索表も与えた．

はじめに

ショウジンガニ科 Plagusiidae のイボショウジンガニ属 *Plagusia* Latreille, 1804 には，これまで 5 種の有効種が知られ (Ng et al. 2008; Schubart & Cuesta 2010)，日本からはツブイボショウジンガニ *P. immaculata* Lamarck, 1818 およびイボショウジンガニ *P. squamosa* (Herbst, 1790) の 2 種が記録されている (武田・今原 2011)．これら 2 種のほかに，酒井 (2003) は「日本産蟹類の標準和名」と題した報文において，*Guinusia chabrus* (Linnaeus, 1758) (*Plagusia chabrus* として) および *P. speciosa* Dana, 1851 を掲載しているが，これまでこの両種が日本沿岸から採集された記録はない．

近年，著者は琉球列島における十脚甲殻類相についての調査を実施しているが，その過程で琉球列島から採集記録のないツブイボショウジンガニ *P. immaculata* および日本国内から未記録である *P. speciosa* が採集されたのでここに報告する．

本研究で扱った標本は，琉球大学資料館風樹館 (RUMF: Ryukyu University Museum, Fujukan) に収蔵した．標本の大きさは甲長 × 甲幅 (mm) で示した．なお，本稿での報告対象 2 種との形態比較のため，以下の標本も検鏡した．

比較標本. イボショウジンガニ *Plagusia squamosa* (Herbst, 1790). RUMF-ZC-3630, 1 雌 (36.3 × 38.5 mm)，小笠原諸島父島石浦海岸，2010 年 6 月 28 日，藤田喜久採集; RUMF-ZC-2964, 1 雌 (19.7 × 20.6 mm)，沖縄島国頭村伊江，2012 年 3 月 18 日，前之園唯史採集; RUMF-ZC-2963, 1 雌 (14.6 × 15.7 mm)，沖縄島恩納村宇加地，2007 年 5 月 20 日，前之園唯史採集; RUMF-ZC-3706, 1 雄 (34.5 × 36.2 mm)，宮古諸島下地島中の島 (24°48’43.34” N, 125°08’34.67” E), 2014 年 11 月 2 日，伊良部・下地調査チーム採集; RUMF-ZC-3013, 1 雄 (43.8 × 46.7 mm)，台湾高雄市西子湾, 2011 年 7 月 5 日．

種の報告

Plagusiidae Dana, 1851
ショウジンガニ科
***Plagusia* Latreille, 1804**
イボショウジンガニ属
***Plagusia immaculata* Lamarck, 1818**
ツブイボショウジンガニ
(図 1)

検討標本. RUMF-ZC-2966, 1 雄 (30.7 × 32.1 mm)，沖縄島名護市嘉陽, 2012 年 4 月 8 日，前之園唯史採集; RUMF-ZC-2965, 1 雌 (19.5 × 20.6 mm)，沖縄諸島南城市奥武島, 2010 年 8 月 8 日，前之園唯史採集; RUMF-ZC-403, 1 雌 (30.6 × 32.0 mm)，石垣島平久保の浜, 2005 年 11 月 27 日，田村常雄採集．

採集環境. 名護市嘉陽では，海岸に漂着したブイ (浮標) の隙間より採集し，南城市奥武島では，礁池内に堆積している直径 50 cm ほどの転石の隙間より採集した．

備考. 検討標本の形態的特徴は，先行研究で示されている *P. immaculata* の記載や図と概ね一致した [Lamarck 1818; Miers 1878; Rathbun 1918; Tesch 1918 (key); Edmondson 1959; Crosnier 1965; Chen 1975; Sakai 1980; Vannini & Valmori 1981; Dai et al. 1986; Chen & Xu 1991; Dai & Yang 1991; Ng et al. 2000 (key); Schubart & Ng 2000; 武田・今原 2011]．なお，石垣島の検討標本 (RUMF-ZC-

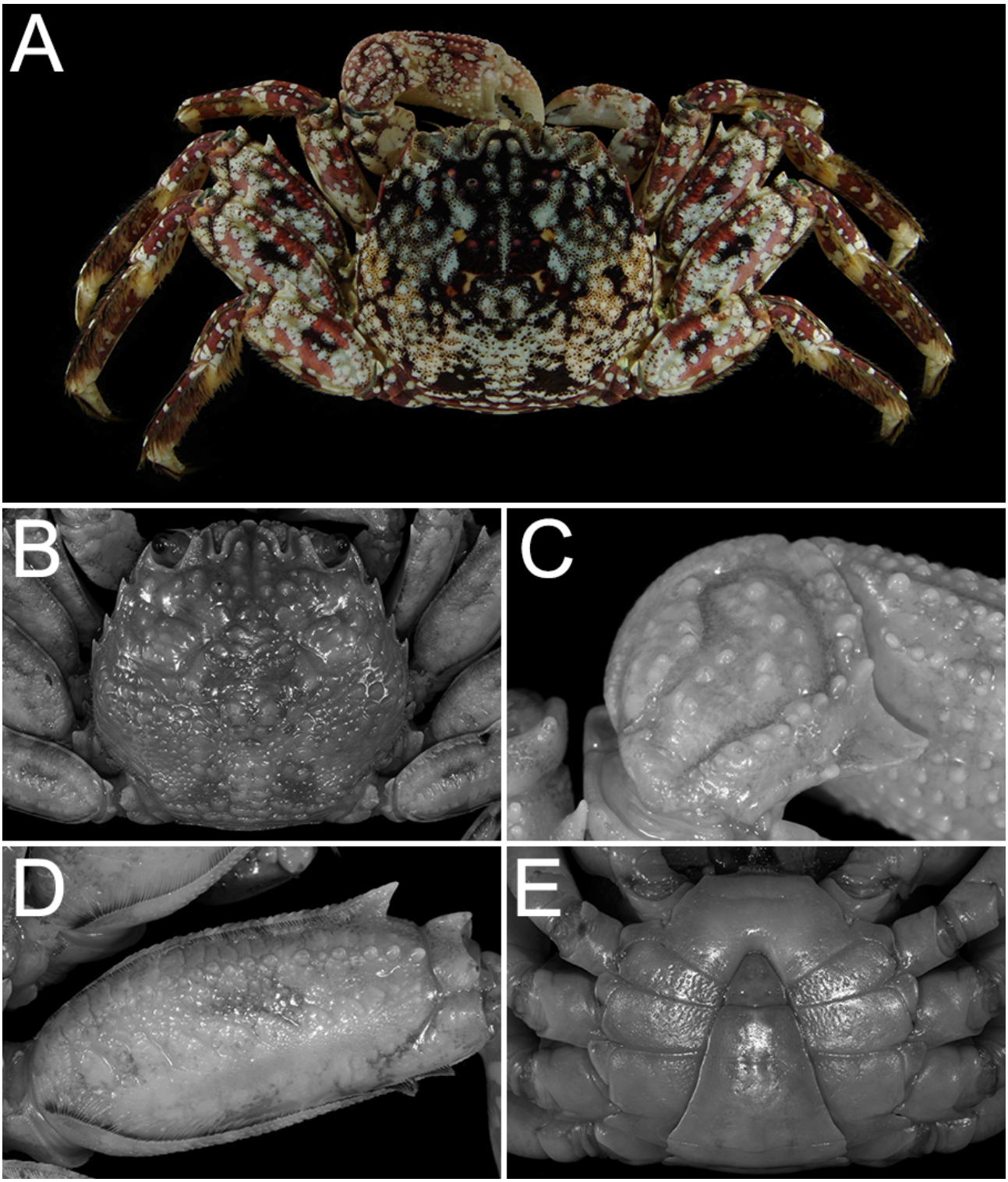

図 1. ツブイボショウジンガニ, RUMF-ZC-2966, 雄 (30.7 × 32.1 mm). A, 全体, 背面 (生時の色彩); B, 甲, 背面; C, 左鉗脚の腕節, 上面; D, 右第 3 歩脚の長節, 上面; E, 胸部腹甲と腹部, 外面.

Fig. 1. *Plagusia immaculata* Lamarck, 1818, RUMF-ZC-2966, male (30.7 × 32.1 mm). A, entire animal, dorsal view (live colouration); B, carapace, dorsal view; C, carpus of left cheliped, upper view; D, merus of right third ambulatory leg, upper view; E, thoracic sternum and pleon, outer view.

403) は, 成瀬 (2010) においてイボショウジンガニ *P. squamosa* と同定されていたが, 標本を再精査したところ, 実際には *P. immaculata* であった.

本種はイボショウジンガニに酷似するが, 次の形態的特徴により識別できる: 1) 甲背面の

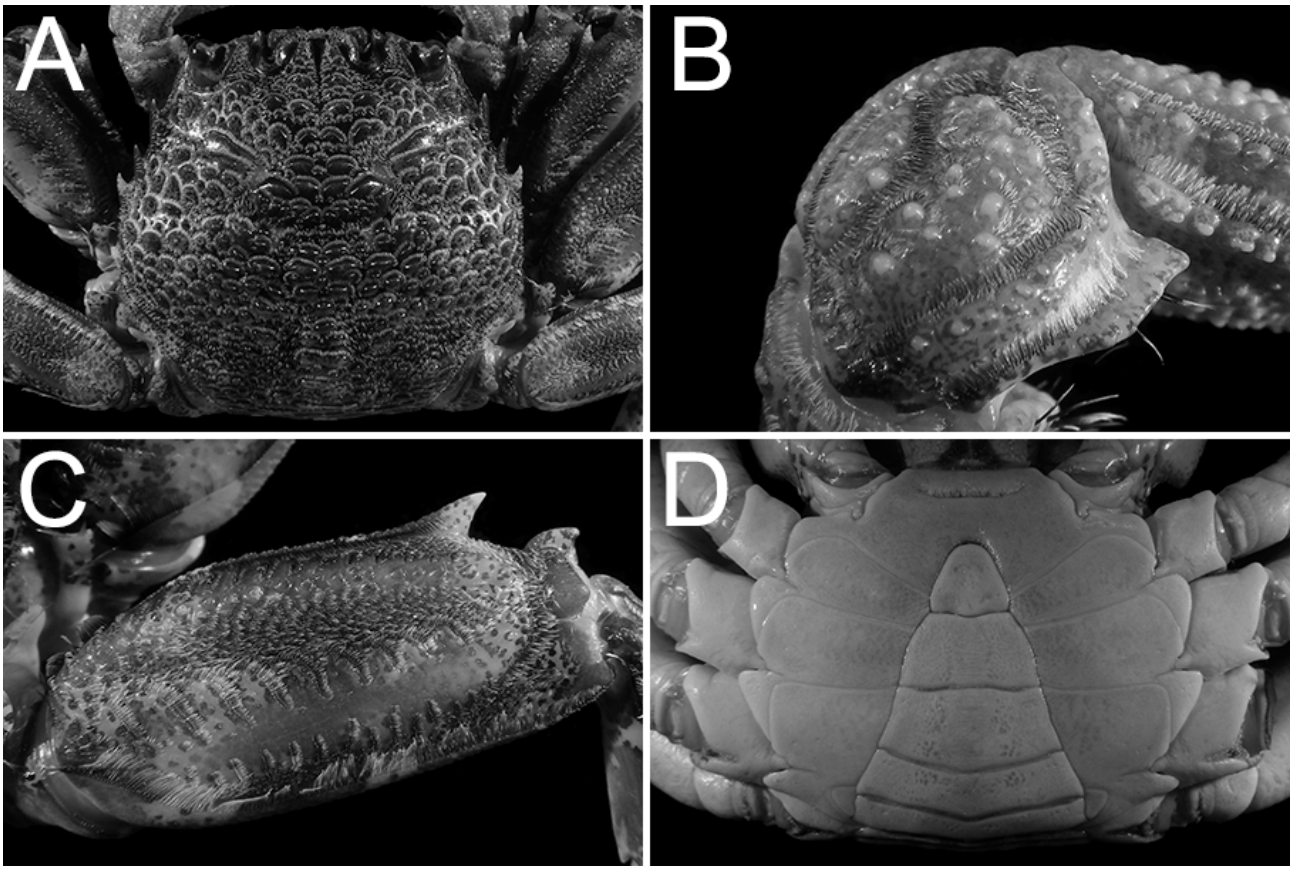

図 2. イボショウジンガニ, RUMF-ZC-3706, 雄 (34.5 × 36.2 mm). A, 甲, 背面; B, 左鉗脚の腕節, 上面; C, 右第 3 歩脚の長節, 上面; D, 胸部腹甲と腹部, 外面.

Fig. 2. *Plagusia squamosa* (Herbst, 1790), RUMF-ZC-3706, male (34.5 × 36.2 mm). A, carapace, dorsal view; B, carpus of left cheliped, upper view; C, merus of right third ambulatory leg, upper view; D, thoracic sternum and pleon, outer view.

瘤状顆粒の前縁は, 無毛または非常に短い剛毛が疎らに生える (図 1B). これに対してイボショウジンガニでは, より長い剛毛が密に列生する (図 2A); 2) 鉗脚の腕節上面に U 字形に配置される浅い溝には剛毛が生えない (図 1C). これに対してイボショウジンガニでは, この溝に剛毛が列生する (図 2B); 3) 歩脚の長節上面を縦走する浅く幅広い溝には, 短い剛毛が疎らに生える, もしくはほぼ無毛である (図 1D). これに対してイボショウジンガニでは, より長い剛毛が密生する (図 2C). これらの識別形質のうち, 鉗脚の腕節上面の剛毛の有無については, *P. immaculata* では, 個体の大きさや雌雄に関わらず無毛であり, イボショウジンガニでは, *P. immaculata* の検討標本における雌雄それぞれの最大標本よりやや大きい標本 (雄: RUMF-ZC-3706, 34.5 × 36.2 mm; 雌: RUMF-ZC-3630, 36.3 × 38.5 mm) では剛毛が列生しているが, さらに大型の雄標本 (RUMF-ZC-3013, 43.8 × 46.7 mm) では, 剛毛が非常に疎らで, ほぼ無毛である. したがって, イボショウジンガニの当該箇所の剛毛は, 成長に伴い少なくなる可能性があるため, この形質による識別には注意が必要である.

以上の形質のほかに, 先行研究では甲背面の瘤状顆粒の膨らみでも両種は識別できるとされている. しかしながら, 本研究で観察した両種の標本では, 大きさが同程度の場合にようやく識別できる程度の差であり, 比較標本がない場合, この形質のみによる識別は困難であった. さらに, Ng et al. (2000) の検索表では, 雄の尾節の形状にも言及し, *P. immaculata* では, 尾節の先端がやや丸みを帯びた三角形であり (例えば, Rathbun 1918: pl. 103, fig. 2), これに対してイボショウジンガニでは, 先端がより尖った三角形 (例えば, Rathbun 1918: pl. 102, fig. 2; Naderloo 2011: fig. 17c) とされている. しかしながら, Edmondson (1959: fig. 23) ではイボショウジンガニよりも *P. immaculata* の方が尾節の先端は尖り, さらに, これを引用した Crosnier (1965) も尾節は *P. immaculata* の方が尖るとしている.

本研究で観察した両種の雄標本では, *P. immaculata* の尾節 (図 1E) よりもイボショウジンガニの尾節 (図 2D) の方がやや縦長の印象を覚えるが, その差は僅かであるため, 雄の尾節による識別については実用性が低いと判断される.

なお, 本研究で観察した標本では, 両種の腹節に次のような違いが確認された: 1) 雄の腹節は, 両種ともに第 3–6 腹節が癒合し, *P. immaculata* では甲長 30.7 mm の標本 (RUMF-ZC-2966) において, 第 3･4 腹節間の縫合線が確認されるのみで, 第 4–6 腹節間の縫合線は不明瞭であるが (図 1E), イボショウジンガニでは, 甲長 34.5 mm の標本 (RUMF-ZC-3706) においても各腹節間の縫合線は明瞭であり (図 2D), 甲長 43.8 mm の標本 (RUMF-ZC-3013) において, 第 4–6 腹節間の縫合線は不明瞭となる (第 3･4 腹節間の縫合線は明瞭); 2) 雌の腹節は, *P. immaculata* では甲長 19.5 mm の標本 (RUMF-ZC-2965) において, 胸部腹甲の大部分を覆うように広がり (第 5 腹節は第 3 腹節より明らかに幅広い), イボショウジンガニでは, 甲長 19.7 mm の標本 (RUMF-ZC-2964) においても腹節の広がりは未発達であり (第 5 腹節と第 3 腹節はほぼ同じ幅), 甲長 36.3 mm の標本 (RUMF-ZC-3630) において, 腹節は広がり胸部腹甲を覆う. これらの両種における腹節の発達程度の違いは, 両種の成熟サイズが異なることを示唆しているが, 具体的な成熟サイズを特定するには, さらに多くの標本に基づいた検証が必要である.

分布. 本種はインド–太平洋に広く分布し, これまで西はタンザニア, ソマリア, マダガスカル島から, 東はパナマのタボガ島, コロンビアのゴルゴナ島まで記録がある (Rathbun 1918; Garth 1948; Crosnier 1965; Vannini & Valmori 1981). 日本沿岸での採集記録は 2 例のみで, その何れも和歌山県である (武田･今原 2011; 久保田ら 2013). 本研究の検討標本により, 本種が琉球列島にも分布することが示された. なお, Lamarck (1818) は, 本種の記載に用いた標本の産地を "la Méditerranée? Je la crois de l'Océan Indien" と記しているが, これまで地中海からの確実な記録がないことから, Schubart & Ng (2000) は, インド洋のココス (キーリング) 諸島産の標本をネオタイプに指定したため, 本種のタイプ産地はココス (キーリング) 諸島である.

標準和名. Sakai (1980) は, 天皇海山 (中部太平洋) の水深 490–530 m から採集された標本に基づき, *Plagusia immaculata* に「ミナミイボショウジンガニ」の和名を与えた. その後, 本種の日本初記録である武田･今原 (2011) は, 和歌山県産の標本に基づき「ツブイボショウジンガニ」の和名を新称として与えた. さらに, 日本から 2 例目の採集記録である久保田ら (2013) は, Sakai (1980) による和名「ミナミイボショウジンガニ」を使用している. このように, 本種には 2 つの和名が存在し, 和名が安定している状態ではない.

これらの 2 つの和名のうち, 武田･今原 (2011) による和名は, 日本産の標本に基づいて提唱されていること, 和名提唱の基となった標本の所在が論文中に明記されていることから, より適した提唱方法であると判断される. したがって, 本種の標準和名を「ツブイボショウジンガニ」に固定することを提唱し, 標準和名の基準となる標本として武田･今原 (2011) で供試され, 国立科学博物館に収蔵されている和歌山県志原産の標本 (NSMT-Cr 24232, 雄, 49.0 × 52.5 mm) を指定する.

***Plagusia speciosa* Dana, 1851**
ミゾイボショウジンガニ (改称)
(図 3)

検討標本. RUMF-ZC-2967, 1 雄 (29.1 × 30.9 mm), 1 雌 (16.2 × 17.7 mm), 沖縄島糸満市大度海岸, 2015 年 2 月 18 日, 前之園唯史採集.

採集環境. 検討標本は礁縁付近のサンゴ礁岩盤の隙間で採集した.

備考. 検討標本の形態的特徴は先行研究で示されている *P. speciosa* の記載や図とよく一致した [Dana 1851; Miers 1878; Tesch 1918 (key); Boone 1934; Edmondson 1959; Forest & Guinot 1961; Garth 1965; Poupin 1994; Ng et al. 2000; Poupin & Juncker 2010].

本種は次の特徴により, 他のイボショウジンガニ属 4 種から容易に識別できる: 1) 甲の前側縁には, 眼窩外歯を含む棘状の 3 歯を具える (図 3A, B). これに対して他の 4 種では 4 歯である; 2) 胸部腹甲や腹節, 尾節の外面および歩脚の腹面には, 剛毛が列生した多数の溝を具える (図 3C). これに対して他の 4 種ではこれを欠き無毛, 平滑である.

分布. 本種はフランス領ポリネシアのマニヒ島をタイプ産地とし (Dana 1851), 太平洋に

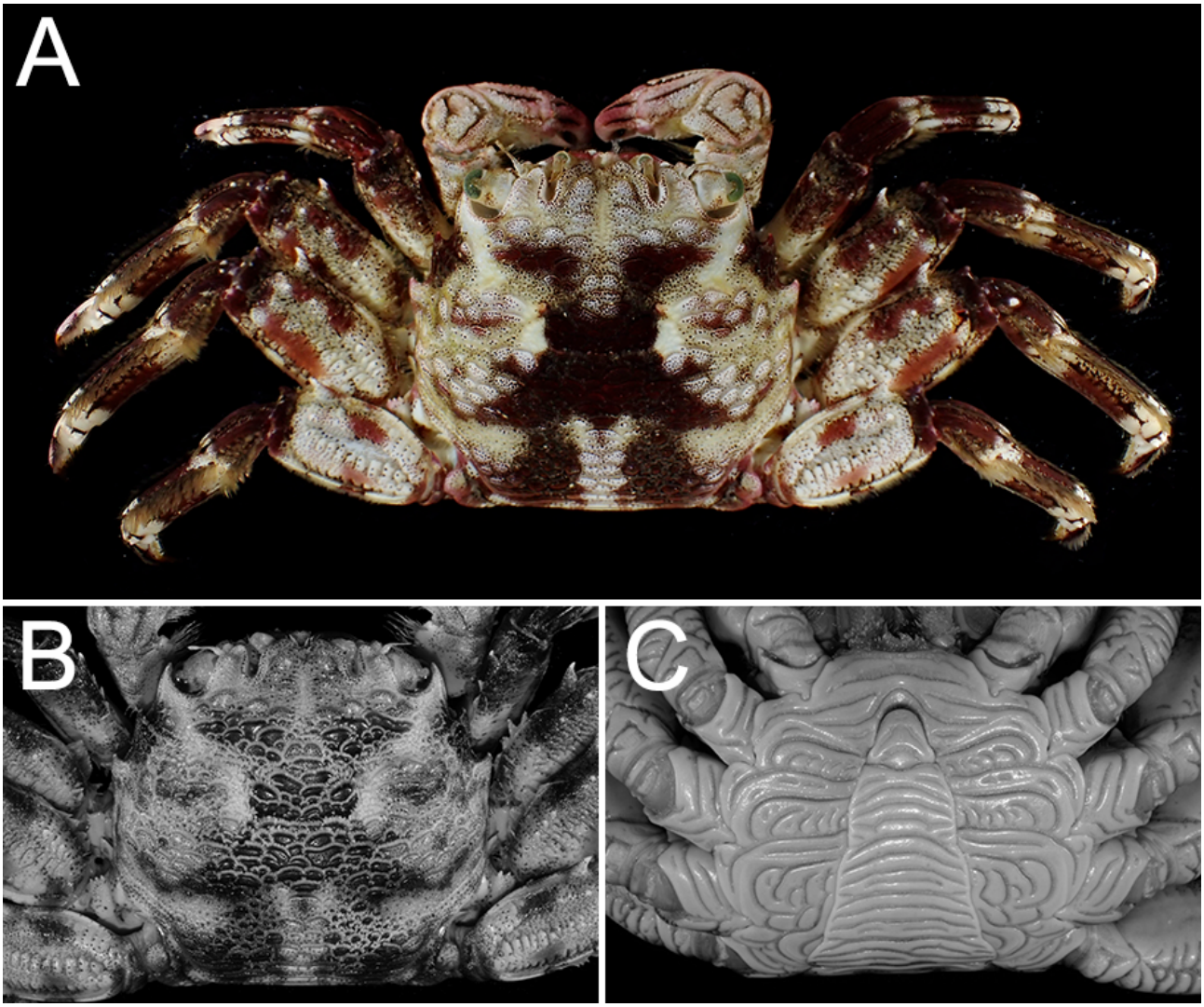

図 3. ミゾイボショウジンガニ (改称), RUMF-ZC-2967, 雄 (29.1 × 30.9 mm). A, 全体, 背面 (生時の色彩); B, 甲, 背面; C, 胸部腹甲と腹部, 外面.
Fig. 3. *Plagusia speciosa* Dana, 1851, RUMF-ZC-2967, male (29.1 × 30.9 mm). A, entire animal, dorsal view (live colouration); B, carapace, dorsal view; C, thoracic sternum and pleon, outer view.

広く分布する. これまで西は台湾から東はクリッパートン島まで記録があるが (Garth 1965; Ng et al. 2000), 日本沿岸からの確認記録はない. 本報告は, 本種の日本沿岸からの初記録を示すとともに, 分布の北限記録を台湾から沖縄島へ更新した.

標準和名. 酒井 (2003) は「日本産蟹類の標準和名」と題した報文において, 本種に「ダーナショウジンガニ」の和名を与えた. しかしながら, 当時は日本沿岸からの本種の採集記録はなく, 本種を "日本産蟹類" と扱ったことは適切ではない. また, 酒井 (2003) は, 標本に基づいた和名の新称提唱を行わず, 学名リストに和名を対応させる方法により新称和名を提唱している [標本に基づく和名提唱の必要性については瀬能 (2002) や松浦 (2009) などを参照]. これらのことを勘案すると, 酒井 (2003) によって提唱された和名に関しては, 再考の必要があるといえよう. したがって, 本稿において日本産の標本に基づいた改称を提唱し, 和名の安定化を図る.

本種は, 腹面に多数の溝を具えることから, 標準和名を「ミゾイボショウジンガニ」に改称することを提唱する. また, 標準和名の基準となる標本には, 本研究の検討標本 (RUMF-ZC-2967, 雄, 29.1 × 30.9 mm) を指定する.

日本産ショウジンガニ科の種の検索表

本稿で報告した 2 種にイボショウジンガニ *P.*

squamosa (Herbst, 1790) とショウジンガニ *Guinusia dentipes* (De Haan, 1835) を加えた日本産ショウジンガニ科全種の検索表を以下に示す. なお, イボショウジンガニとツブイボショウジンガニの識別形質については, 標本の大きさに関係なく適用できる形質のみを記しているため, 詳細はツブイボショウジンガニの備考を参照されたい.

1. 甲の背面は短い剛毛で覆われ, 小さな顆粒が散在する. 歩脚の長節の前縁には, 尖った歯が多数並ぶ……ショウジンガニ属 *Guinusia*……ショウジンガニ *G. dentipes*
–. 甲の背面は鱗状に配置された瘤状顆粒で覆われる. 歩脚の長節の前縁には, 末端部とその手前に計 2 本の尖った歯を具える……イボショウジンガニ属 *Plagusia*……2
2. 甲の前側縁には, 眼窩外歯を含め棘状の 3 歯を具える. 胸部腹甲や腹節, 尾節の外面および歩脚の腹面には, 剛毛が列生した多数の溝を具える……ミゾイボショウジンガニ *P. speciosa*
–. 甲の前側縁には, 眼窩外歯を含め棘状の 4 歯を具える. 胸部腹甲や腹節, 尾節の外面および歩脚の腹面は無毛, 平滑である……3
3. 甲背面の瘤状顆粒の前縁には, 長い剛毛が密に列生する. 歩脚の長節上面を縦走する浅く幅広い溝には, 長い剛毛が密生する……イボショウジンガニ *P. squamosa*
–. 甲背面の瘤状顆粒の前縁は, 無毛または非常に短い剛毛が疎らに生える. 歩脚の長節上面を縦走する浅く幅広い溝は, ほぼ無毛または短い剛毛が疎らに生える……ツブイボショウジンガニ *P. immaculata*

謝辞

琉球大学熱帯生物圏研究センターの成瀬貫准教授には, 文献の入手や標本の貸出・収蔵に際してご協力いただいた. 国立科学博物館の武田正倫名誉研究員および小松浩典博士には, 国立科学博物館に収蔵されている標本に関して情報を提供していただいた. 千葉県立中央博物館分館海の博物館の奥野淳兒博士および匿名の査読者には, 本稿に対して有益なコメントをいただいた. ここに記して厚くお礼申し上げます.

引用文献

Boone, L., 1934. Scientific results of the World Cruise of the Yacht “Alva”, 1931, William K. Vanderbilt, commanding. Crustacea: Stomatopoda and Brachyura. Bulletin of the Vanderbilt Marine Museum, 5: 1–210, pls. 1–109.

Chen, H.-L., 1975. Studies on the crabs of Xisha Islands I. Guangdong Province, China. Studia Marina Sinica, 10: 157–179, pls. I–III.

Chen, H.-L. & Z.-X. Xu, 1991. Studies on the crabs of the Nansha Islands, China. In: Contribution on Marine Biological Research of the Nansha Islands and neighbouring waters 3. Pp. 48–106, China Ocean Press, Beijing.

Crosnier, A., 1965. Crustacés Décapodes Grapsidae et Ocypodidae. Faune de Madagascar, 18: 1–143, pls. I–XI.

Dai, A.-Y. & S.-L. Yang, 1991. Crabs of the China Seas. China Ocean Press, Beijing.

Dai, A.-Y., S.-L. Yang, Y.-Z. Song & G.-X. Chen, 1986. Crabs of the China Seas. China Ocean Press, Beijing.

Dana, J.D., 1851. Conspectus Crustaceorum quae in orbis terrarum circumnavigatione, Carolo Wilkes e classe Republicae Foederatae duce, lexit et descripsit. Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia, 5: 247–254.

Edmondson, C.H., 1959. Hawaiian Grapsidae. Occasional Papers of Bernice P. Bishop Museum, 22: 153–202.

Forest, J. & D. Guinot, 1961. Crustacés Décapodes Brachyoures de Tahiti et des Tuamotu. In: Expédition française sur les récifs coralliens de la Nouvelle-Calédonie. Volume préliminaire. Éditions de la Fondation Singer-Polignac, Paris.

Garth, J.S., 1948. The Brachyura of the “Askoy” Expedition, with remarks on carcinological collecting in the Panama Bight. Bulletin of the American Museum of Natural History, 92: 1–66.

Garth, J.S., 1965. The brachyuran decapod crustaceans of Clipperton Island. Proceedings of the California Academy of Sciences (fourth series), 33: 1–46.

久保田信・丸村眞弘・鯵坂哲朗, 2013. ボウアオノリ (緑藻類) で体の背側の大部分を覆われたミナミイボショウジンガニ (甲殻類). 日本生物地理学会会報, 68: 117–119.

Lamarck, J.-B.P.A. de, 1818. Histoire Naturelle des Animaux sans Vertèbres, présentant les caractères généraux et particuliers de ces animaux, leur distribution, leurs classes, leurs familles, leurs genres, et la citation des principales espèces qui s'y rapportent; précédée d'une introduction offrant la détermination des caractères essentiels de l'Animal, sa distinction du végétal et des autres

corps naturels, enfin, l'Exposition des principes fondamentaux de la zoologie, 5: 1–612.
松浦啓一, 2009. 動物分類学. 東京大学出版会, 東京.
Miers, E.J., 1878. Revision of the Plagusiinae. The Annals and Magazine of Natural History (5th series), 1: 147–154.
Naderloo, R., 2011. Grapsoid crabs (Decapoda: Brachyura: Thoracotremata) of the Persian Gulf and the Gulf of Oman. Zootaxa, 3048: 1–43.
成瀬貫, 2010. 琉球大学資料館 (風樹館) 収蔵資料目録第 3 号 琉球大学資料館 (風樹館) 甲殻類標本目録. 琉球大学資料館 (風樹館), 西原.
Ng, N.K., H.-C. Liu & P.-H. Ho, 2000. *Plagusia speciosa* Dana, 1851, a new record for Taiwan (Crustacea: Decapoda: Brachyura: Plagusiinae) with a key to the genus for Taiwan. Journal of the National Taiwan Museum, 53: 13–22.
Ng, P.K.L., D. Guinot & P.J.F. Davie, 2008. Systema Brachyurorum: Part I. An annotated checklist of extant brachyuran crabs of the world. The Raffles Bulletin of Zoology, Supplement, 17: 1–286.
Poupin, J., 1994. Quelques Crustacés Décapodes Communs de Polynésie Française. Rapport Scientifique du Service Mixte de Surveillance Radiologique et Biologique, de l'homme et de l'environnement. SMSRB, Montlhéry.
Poupin, J. & M. Juncker, 2010. Guide des crustaces decapodes du Pacifique Sud (A guide to the decapod crustaceans of the South Pacific). CRISP et CPS, Nouméa.
Rathbun, M.J., 1918. The grapsoid crabs of America. Bulletin of the United States National Museum, 97: I–XXII, 1–461, pls. 1–161.
酒井勝司, 2003. 日本産蟹類の標準和名. タクサ, 15: 13–30.
Sakai, T., 1980. On new or rare crabs taken from Japanese and Central Pacific waters. Reseaeches on Crustacea, 10: 73–84, pl. V, frontispiece pl. II.
Schubart, C.D. & J.A. Cuesta, 2010. Phylogenetic relationships of the Plagusiidae Dana, 1851 (Brachyura), with description of a new genus and recognition of Percnidae Števčić, 2005, as an independent family. In: P. Castro, P.J.F. Davie, P.K.L. Ng & B. Richer de Forges (eds.), Studies on Brachyura: a Homage to Danièle Guinot. Crustaceana Monographs, 11: 279–299.
Schubart, C.D. & P.K.L. Ng, 2000. On the identities of the rafting crabs *Cancer depressus* Fabricius, 1775, *Cancer squamosus* Herbst, 1790, *Plagusia immaculata* Lamarck, 1818, and *Plagusia tuberculata* Lamarck, 1818 (Crustacea: Decapoda: Brachyura: Plagusiidae). The Raffles Bulletin of Zoology, 48: 327–336
瀬能宏, 2002. 標準和名の安定化に向けて. 青木淳一・奥谷喬司・松浦啓一 (編), 虫の名, 貝の名, 魚の名 和名にまつわる話題. Pp. 192–224, 東海大学出版会, 秦野.
武田正倫・今原幸光, 2011. 日本新記録のツブイボショウジンガニ (新称) *Plagusia immaculata* Lamarck, 1818 (甲殻綱, 十脚目, ショウジンガニ科). 南紀生物, 53: 115–118.
Tesch, J.J., 1918. The Decapoda Brachyura of the Siboga Expedition. I. Hymenosomidae, Retroplumidae, Ocypodidae, Grapsidae and Gecarcinidae. Siboga-Expeditie, 39c: 1–148, pls. I–VI.
Vannini, M. & P. Valmori, 1981. Researches on the coast of Somalia. The shore and the dune of Sar Uanle. 30. Grapsidae (Decapoda Brachyura). Monitore zoologico italiano N. S., Supplemento, 14: 57–101.

Two rafting crabs of the genus *Plagusia* Latreille, 1804 (Crustacea: Decapoda: Brachyura: Plagusiidae) collected from the Ryukyu Archipelago, Japan

Tadafumi Maenosono
Kankyosha, 1-4-5 102 Kyozuka, Urasoe, Okinawa 901-2111, Japan
(maenosono@kankyo-sha.co.jp)

Abstract. Two species of rafting crabs, *Plagusia immaculata* Lamarck, 1818, and *P. speciosa* Dana, 1851, are recorded from the Ryukyu Archipelago for the first time based on the specimens collected from the Okinawa Island Group and Ishigakijima Island. *Plagusia speciosa* is newly added to the Japanese fauna. An identification key to all plagusiid species recorded from Japan is also provided.

投稿日: 2015 年 6 月 12 日
受理日: 2015 年 10 月 15 日
発行日: 2015 年 12 月 13 日